

LGBTってなんだろう

薬師実芳・笹原千奈未・古堂達也・小川奈津己
2014年 合同出版



40人の1クラスに2人の割合でいるLGBTの子ども。学生の生の声や、LGBTが何かを理解するために書かれました。子どもたちに寄り添うための本。
(筑紫)

電話相談員のための セクシュアル・マイノリティ 支援ハンドブック

監修・編集
NPO 法人共生社会をつくる
セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク
2012年 株式会社つなかんぱにー



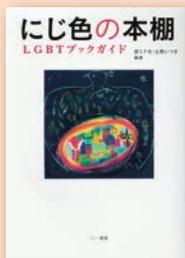
セクシュアル・マイノリティを理解するための基礎から、相談の支援・実践に備えるためのガイドブック。

対応の仕方が具体例で挙げられており、分かりやすい。

電話相談員のためだけでなく、すべての人の手元に置きたい一冊。
(河原)

にじ色の本棚 LGBTブックガイド

原ミナ汰・土肥いつき 編著 2016年 三一書房



「ともに生きる」ためには、まず「知る」が必要です。「多様な性」を生きる人々を知るためのたくさんの本が紹介されています。その中から人生を変える一冊に出会えるかもしれません。その一冊の出会いが新たな出会いへと繋がればいいと感じました。
(成田)

境界を生きる 性と生のはざま

新聞「境界を生きる」取材班

2013年 毎日新聞社



「体の性」「心の性」の食い違いに悩む人たちがいます。

性分化疾患（性器や染色体の性別が曖昧だったり、一致しなかったりする疾患の総称）、性同一性障害（体の性と心の性が一致せず悩む状態・性別違和）の当事者や家族への取材をもとに作られた本です。

男か女かどちらかであるのが当たり前とされる社会。そんな中で、まずは私たちの存在を知ってほしい、事実や想いを伝えることで生きやすい社会にしたいとの切なる願いが伝わってくる一冊です。

(成田)

ダブルハピネス

杉山文野 2006年 講談社



僕はいったい誰なんだ？

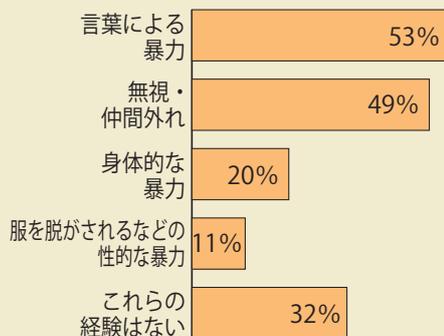
幼い頃から自分の気持ちの違和感に苦しみながら、小、中学校を過ごしました。高校生で友だち、家族へと勇気あるカミングアウトを重ねながら、自分らしく生きていく道を切り拓いていく姿が表現されています。

性同一性障害って何だろうと、いろいろな角度から説明され理解できます。
(近藤)

日本のセクシュアル・マイノリティ関連の教育事情

2010年	文部科学省 性同一性障害の生徒に配慮し教育相談や医療連携を通知
2013年	いじめ自殺防止の学校対策にセクシュアル・マイノリティを含める
2014年	性同一性障害（性別違和）らしき生徒児童把握の全国調査で606名への学校対応を確認
2015年	文部科学省 性的少数者の子に配慮を求める通知を出す

いじめや暴力を受けた経験 (複数回答)



※「いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」(2013年)調べ。609人が回答

いじめを受けた経験のある人は7割
当事者のうち、約7割が学校でいじめられたことがあるとされています。さらに、そのうち3割の人が自殺を考えたことがあることが、わかっています(いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーンによる調査)。このことは、セクシュアル・マイノリティの子どもたちが、つらい状況に置かれがちであることを示しています。
(福田)